

入局（卒業）3年目に金沢赤十字病院に1年間の一人医長のローテーターと赴任しました。現在日赤に産科はなくなりましたが、昭和50年で金沢でのお産は国立病院と日赤病院が殆どの頃であります。4月日赤病院に赴任しすぐ院長の遠藤幸三先生にお願ひし、多分北陸地方で最初だと思いますが新生児を小児科管理にして、病院での授乳は完全母乳にしました。その時のお話をします。その頃は岡山国立病院で山内逸郎先生が母乳育児を言われ始めた頃で、まだまだ人工栄養の真っ盛りの時代であります。病院では完全母乳で1週間過ぎても、退院して1ヶ月健診には混合栄養になっていることが多くありました。生後3週目位に実際は充分母乳が出ているのに出ている実感がなく、体重増加もあり必要ないのに不安に駆られミルクを加えていることが多くありました。その様な時のサポートの必要性を感じ、電話相談は24時

間随時産科病棟で受け、さらに無料の母乳相談日を小児科の外来で当初週一日、後半は週二日設定し自由に来院してもらいました。その頃は小児科の本自体が非常に少なく、新生児管理や保育マニュアルなどない時代であります。すべて試行錯誤で始め、赴任3カ月目の7月頃からは全面的に母乳だけにし、病棟からミルクは追放しました。混合栄養を指導したのは1年間で一組の双子と高齢出産の1例だけでありました。1年間の赴任から大学へ帰る前にアンケートをとりました。

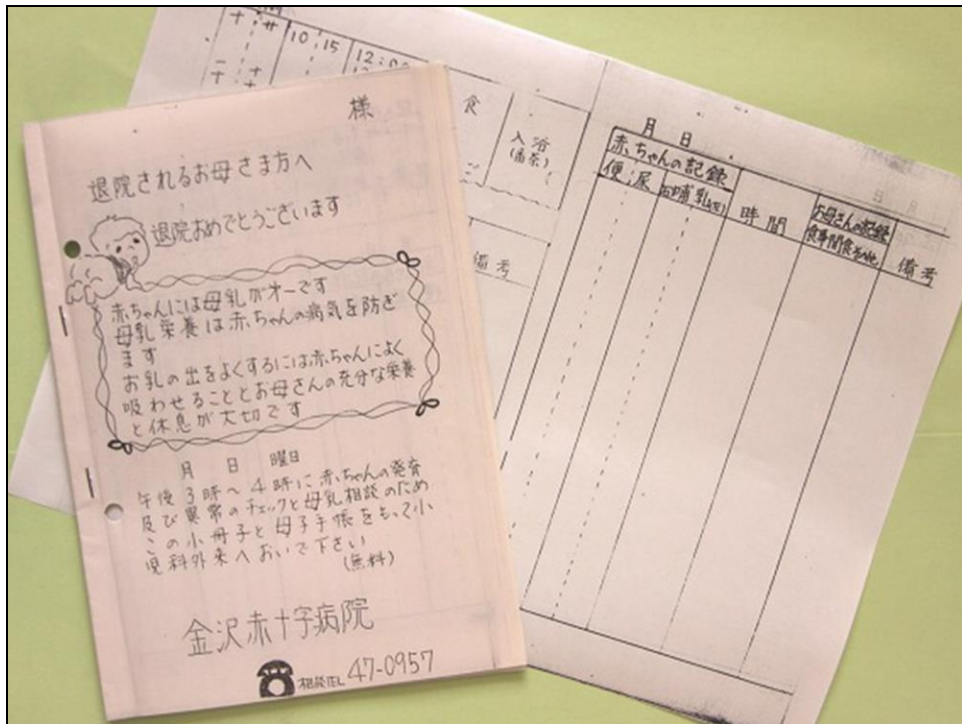
スライドは8月から10月まで生まれた児の3ヶ月健診での成績です。74名位中64名の回答が得られました。実線は完全母乳率で右の棒グラフは3ヶ月での意識としての母乳、混合栄養、人工栄養であります。

ミルクを与えた理由

1. 母乳の出が悪くなったから……………59
2. 母親が働きに出る為……………24
3. 母乳不足が心配で、予防的に……………21
4. 赤ちゃんが良く泣くので……………21
5. 体重増加が悪かったから……………18
6. 将来ミルク嫌いになると困るので……………12
7. 母親の体調不良の為……………6
8. 哺乳瓶の方が良く飲んでくれるので……………3
9. 黄疸が長引き、医師から母乳をやめるように言われたから…3

金沢赤十字病院 昭和51.8～10生

その時のミルクを加えた理由です。これは今も昔も変わらないと思います。母乳が足りていないじゃないかという不安、周囲からの誤った助言による事が多くありました。



スライドの様に児の状態もそうですが、母親の生活すなわち睡眠、休息、食事内容を記録する小冊子を退院時に渡し、記録して母乳相談の日に持って来てもらいました。体重増加の悪い児もいました。その中には先程のアンケートのように保健所の保健婦にミルクを勧められすでにミルクを与えた児もいましたが、母親の食べ物、睡眠、上の児との接し方等を指導するだけで、体重の増加が得られることがほとんどでした。児だけではなく母乳哺育の場合、母親へのアプローチももっと必要ではないかと思っております。入院中はもらい乳なども病棟ではしていたのですが、丁度このアンケートを取っている頃からHTLVは母乳で感染する事が話題になり「もらい乳」をやり難くなりました。日赤産科はその後母乳栄養が看板となり、お産も3倍位増加しましたが、時代と共に今は産科自体もなくなってしまいました。

その後、VitK等の問題、最近では日光浴もしなくなってきたVitDの問題も出てきています。母乳哺育を勧めていくにはそのピットホールを知っていなければなりません。